



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第179号

2018 / 7

全国から注目の岡山 電車バス・オープンデータ

公共交通オープンデータ最先端都市フォーラム in OKAYAMA

開催日時:2018年7月14日(土)

13:30~16:30 (開場 13:00)

会場:岡山県立図書館多目的ホール (岡山県岡山市北区丸の内2-6-30)

主催:公共交通オープンデータ最先端都市フォーラム in 岡山実行委員会 (一般社団法人データクレイドル・東京大学 瀬崎研究室・アーバンデータチャレンジ2018実行委員会・一般財団法人地域公共交通総合研究所・code for KURASHIKI)

定員:80名

その他:参加無料 終了後懇親会(会費制)を予定しております。

公共交通オープンデータ
最先端都市フォーラム
in OKAYAMA
オープンデータを活用して岡山の公共交通の魅力を高めよう!!

■岡山では今、路面電車の駅前乗り入れ、桃太郎線ライトレール化などが前進する一方、バス業界の新規参入を巡る路線廃止届けやスト実施など、公共交通に関する諸問題が大きな転機を迎えています。そしていよいよ岡山市は「公共交通網形成計画」策定に向けて動き出しました。

■岡山駅はJR路線が8方面にも延び、全国有数の交通結節点であり、逆にバスも黒字路線が存在することから、バス会社が多く生き残れたのですが、これが皮肉にも今日の事態を招いたのです。

■ラクダでは1998年から市民による初めてのバスマップを制作し、2003年からは全国バスマップサミットを初開催、現在まで全国15都市で開催してきました。その中でバスマップを制作する全国ネットワークが形成され、最近ではIT系のメンバーが参画、バスデータのオープン化によって、劇的にバスの使い方を改善できる見込みが出てきました。

■岡山では高野こういちさんが宇野バスとともに「その筋屋」を開発し、GTFS/GTFS realtime をオープンデータ提供しているのがきっかけとなり、全国でも最先端の公共交通オープンデータが揃う街になりつつあります。「その筋屋」は誰でも使えるバスダイヤ編成システムの優れものです。また伊藤昌毅さんや太田恒平さんが両備グループのオープンデータ整備をお手伝いしています。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15 禁酒会館3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



■バス問題が全国で注目を集める一方で、複数のバス事業者がオープンデータに自主的に取り組み、面的な整備が進んでいる街は他になく、全国でも有数の公共交通オープンデータ先端地域になろうとしています。データのオープン化は世界からのデータ活用を促進するなど期待が高いのです。

■このイベントでは、現在岡山で公開されている公共交通オープンデータを一堂に集め、データ整備の状況や活用可能性を事例を交えながら紹介します。そして、地域の課題を解決するためのデータ活用の可能性を広く議論します。岡山県における公共交通オープンデータの現状への理解を深めて頂くとともに、公共交通に関心を寄せる皆様がデータの更なる充実や活用のために何が出来るか、考えるきっかけとなることを願っています。

■交通・街づくりに関心のある方、IT・データもエンジニア、交通事業者・自治体関係者等、ご興味のある方はぜひご参加ください。

■フォーラムのプログラム

13:30~13:40 挨拶・趣旨説明

13:40~14:30 基調講演 オープンデータが変える公共交通

講師：伊藤昌毅 東京大学生産技術研究所 助教/地域公共交通総合研究所 研究員

14:30~15:10 話題提供 1 岡山県の公共交通データ スピーカー：岡山県庁データ作成担当者

14:50~15:10 話題提供 2 コミュニティバスデータを作ってみた スピーカー：岡山大学学生

15:30~16:30 アイデアソン



伊藤 昌毅 Masaki Ito

(東京大学 生産技術研究所 助教、一般社団法人 地域公共交通総合研究所 研究員)

「IT×公共交通」をテーマに掲げ、全国の地域コミュニティやバス事業者などを駆け回りながら公共交通オープンデータの推進などに取り組んでいる実践型研究者。2010年からは在籍した鳥取大学で地域公共交通とITの融合に目覚め、2013年から現職。国土交通省 バス情報の効率的な収集・共有に向けた検討会 座長、公共交通分野におけるオープンデータ推進に関する検討会委員などを担当。

参加申し込みは <http://d-cradle.or.jp/forum2018/> から

★「ラクダかわら版179号の軌跡」ポスターセッションで発表予定

第13回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)

開催日 2018年7月27日(金)-28日(土) ※29日(日)は現地見学会を開催

会場 愛知県豊田市 名鉄トヨタホテル(名鉄豊田市駅1分・愛知環状鉄道新豊田駅3分)

■背景と目的 市民にライトレールの良さを伝えるために、ラクダが取り組んできた毎月の京橋朝市で配付する瓦版。2004年10月「路面電車の延伸は無くなったの」のタイトルで始まるかわら版は、局面局面でライトレールと公共交通全体についての動きを一般市民に伝える。市民団体の市民に寄り添う原点として、国会や国交省、市議会などに対するロビー活動との車の両輪。現在の発行部数は1000部、年13回発行。

■プロジェクト内容 毎月第一日曜日に開催される岡山市中心部で開催される「京橋朝市」(376回)にあわせて、A4表裏に時々の情報を掲載したかわら版を約千部配付。政治家も多数来訪する本部前のブースで通行者に配付。毎회가市民の意見を聞く「交通井戸端会議」「出前公聴会」に位置づけで、市民の生の声が聞け、政治家との議論も頻繁にある。毎回バスマップを配付し、ラクダ関係の書籍販売、子供への絵はがき配付なども行う。

■効果 毎月の執筆を行うため、常に岡山だけでなく、全国各地のライトレールやバスマップ、公共交通全般の情報についての感度を高める効果がある。市民に呼びかけるための言い方、解き方などの会員訓練にもなり、会員獲得にも効果。当日国会議員・市議なども見て、議会への直接働きかけにもなる。市議会・記者クラブ・岡山市などにも配付。かわら版をまとめた「クリーンモバイル都市岡山をめざして」の80p冊子も2度出版。

■結論 市民運動としてのテンション継続力には、毎月のかわら版発行が一番。公共交通全体が市民に対する呼びかけ不足に陥っている中で、我々市民団体が率先して市民の意見を聞き続けることが効果的。何でもつぶされてきた岡山のライトレールが駅前乗り入れ、吉備線LRT化と具体化してきたのにも、かわら版の効果は大きい。ラクダの運動の評価として定着している。各地の市民運動でも是非「毎月」のかわら版を発行して欲しい。